天城遺産

Histrical / Natural heritage in Amagi town

シリーズ天城遺産　その１８

田植えと共に失われゆく 田植え歌

町内で唯一、田植えと共に歌い継がれているのが**前野**の田植え歌です。田植えを効率化し、豊作を祈願する田植え歌は、労働歌の一種。内地では至る所に残っていますが、そもそも徳之島以外の奄美・沖縄の島々では、田植え歌が存在しないか、遠い昔に失われたようです。徳之島の開闢神話によると、大むかし天からアメキウデー（現在の天城岳）に降り、カンミイ（前野展望台の辺り）に住み着いたアメンキュという神様夫婦がおられました。山では不便だからと前野原に降りてきて、田んぼをつくり稲を植え、神様の子らそれぞれに住みよい土地を見つけてやり、村々をつくらせました。その神様夫婦がつくった田んぼをユウェダ（祝田）といい、現在の前野集落の南西のはずれにありました。前野の人々はユウェダの田植を手伝わないと、自分の田んぼが不作になると信じられていたので、祝田の持ち主による祈願のあと、集落中の男女が田植をするとき、畦で男が太鼓を鳴らし、田植えする早乙女と掛け合って歌ったのが、前野に伝わる田植え歌です。歌詞は八八八六調の、いわゆる琉歌型で、内容は田植えの苦労や励まし、男女の恋情、豊作への願いなどが織り込まれています。特に男女の恋情が多くを占め、男女の交わりによって身ごもる女性と、稲の実りとが対比されています。さらに、薩摩役人を「ヤマトゥイシュギラ」と称し、薩摩藩支配に対する島人の反骨を表すくだりもあります。

前野の田植え歌は、本来10番までありますが、町内のみならず、島内の他の集落に伝わる田植え歌など民謡に共通するフレーズの節を抜粋しました。

1《男》

ハイョーオネーコネヤー
上(うぇ)ん田ぐぁんバョ　わ田ぐぁヨーマタ
下(しゅ)ん田ぐぁんば　わ田ぐぁエーヌガ
わ嫁(ゆみ)なーてヨ　きゅん人(ちゅう)
エー　ま米(ぐみ)まんだき
　わ嫁なーてヨ　きゅん人
　エー　ま米(ぐみ)まんだき

1《男》現代語

ハイョーオネーコネヤー
上の田んぼは　私の田
下の田んぼも　私の田
私の嫁になって来る人は
美味しい米をたくさん抱かせるよ
　私の嫁になって来る人は
　美味しい米をたくさん抱かせるよ

4《女》

オネガオーネー
清(きゅ)らうまりたんちんバヨー
島のたーめなゅーみーー
ヤマトゥイシューギラ
ヌヨー　ためどぅなーゆい
　ヤマトゥイシューギラ
　ヌヨー　ためどなーゆい

4《女》現代語

オネガオーネー
美人に生まれたとしても
島のためにはならないよ
薩摩役人の
ためになってしまうんだよ
　薩摩役人の
　ためになってしまうんだよ

3《男》

ハイョーオネーコネヤー
うまり稲がなしよ　マタ
鎌かけてみぶさ　エーヌガ
きゅらうまーり　うーなぐ
エー　手かけえぶーさ
　きゅらうまーり　うーなぐ
　エー　手かけえぶーさ

3《男》現代語

ハイョーオネーコネヤー
たわわに実った稲を
鎌で刈り取るように
美しく育った女子に
手を出してみたいものだ
　美しく育った女子に
　手を出してみたいものだ

7《男》

ハイョーオネーコネヤー
道ばたぬサシやヨーマタ
袖ふりばどかかる　エーヌガ
わきゃんばサショなとて
エー　かかりぶさ
　わきゃんばサショなとて
　エー　かかりぶさ

7《男》現代語

ハイョーオネーコネヤー
道ばたのセンダングサは
袖が触れると(種が)くっつく
私もセンダングサになって
(あなたに)くっついていきたい
　私もセンダングサになって
　くっついていきたい

※この節は他の集落では、女性が歌っていました。

9《男》

ハイョーオネーコネヤー
早らし　らーし早らしヨーマタ
なねんぐぁば早らし　エーヌガ
大道(ふうみち)ばたどやーしが
エー　早らし　らーーし
　大道ばたどやーしが
　エー　早らし　らーーし

9《男》現代語

ハイョーオネーコネヤー
早く早く植えなさいよ
もうちょっと早く
人通りの多い道端だから
さあ早く
　人通りの多い道端だから
　さあ早く

もっと情報が見られる電子版はこちら

※ ヤマトゥイシュギラを「**大和衣装清ら**」とする説があり、**衣装「だけ」はきれいな大和人**、という皮肉かもしれません。

編集：天城町教育委員会　具志堅亮、山田文彦（資料提供）